

糖尿病内分泌代謝科のお知らせ

2015年4月から、当科は常勤医3名と非常勤医の体制で糖尿病や内分泌疾患についての専門的な診療を提供しています。2015年6月からは、月に2回、土曜日午後の糖尿病教室と週末の3泊4日を基本とした糖尿病教育入院を行っています。また、2015年8月からは、1型糖尿病など血糖コントロールが困難な方に先進的な在宅インスリンポンプ療法（CSII）を導入しています（現在7名）。さらに2016年4月からは、1週間の日常生活における血糖変動を5分間ごとに測定できる持続血糖モニター（CGM）を開始しました。



糖尿病内分泌代謝科
あわた たくや
部長 栗田 卓也

持続血糖モニター（CGM）

CGMは、一定の間隔で継続的な血糖測定を可能とする血糖測定システムです。CGMを用いることで測定が難しい血糖値の変動を把握できるようになり、糖尿病治療の最適化が可能になると考えられています。今回承認された「メドトロニック iPro2」は、皮下に一時的に留置したセンサー（電極）により組織間質液中のグルコース濃度を連続測定（1日に最大288回）する血糖測定システムです。測定をひとつのセンサーで最大7日間行い、得られた測定値はセンサーに接続された小型のレコーダに5分ごとに記録されます。医師はパソコンを介して複数日にわたるグルコース値の日内変動などを解析し、目標値からの逸脱パターンを認識できるようになります。自己血糖測定（SMBG）だけでは1日の測定回数に限られるため、測定値からグルコースレベルの総合的な変動傾向を示すのは難しく、さらに夜間就寝時などの測定が困難な場合は、無自覚の低血糖状態や、早朝に血糖値が上昇する「暁現象」などの変動を見逃す可能性があります。また、血糖コントロールの指標として過去1～2カ月間の平均値を示すHbA1c値が重視されていますが、血糖コントロールを改善しようとする低血糖状態を招きやすくなるおそれがあると示唆されています。「メドトロニック iPro2」を用いることで、SMBGやHbA1cだけでは測定できないグルコース変動をより正確に評価することが可能となり、個々の患者の状態に即したより良い治療方針の立案を支援することができます。



皮下に一時的に留置したセンサー（電極）

グルコース値の日内変動などを解析

在宅インスリンポンプ療法（CSII）

糖尿病の治療では、栄養指導と平行しながら、患者様の状態に応じて最新の糖尿病治療薬を糖尿病専門医が決定いたします。さらに、1型糖尿病など血糖コントロールが困難な方には先進的な在宅インスリンポンプ療法（CSII）の導入も開始しています。



インスリンポンプ

2016年4月1日から 糖尿病学会専門医制度の 認定教育施設に認可



石川三衛医師・保川信行医師・栗田卓也医師

あわた たくや
糖尿病内分泌代謝科部長 栗田 卓也 教授
プロフィール
・東京大学卒 ・日本糖尿病学会専門医・指導医、
・日本内分泌学会専門医・指導医
・日本肥満学会専門医・指導医

いしかわ さんえ
糖尿病内分泌代謝科 石川 三衛 教授
プロフィール
・群馬大学卒 ・日本糖尿病学会専門医・指導医、
・日本内分泌学会専門医・指導医
・日本腎臓学会専門医・指導医

やすかわ のぶゆき
糖尿病内分泌代謝科 医長 保川 信行 講師
プロフィール
・山梨医科大学卒
・日本糖尿病学会専門医

2016/10/1 国際医療福祉大学病院
発行：地域医療連携室

診療体制（予約制）

診療日：月～金、土（午前）

ご紹介の際は地域医療連携室へご連絡ください。

★糖尿病教育入院・糖尿病教室（月2回土曜日）

糖尿病教室やその他詳細については
ホームページをご参照ください。

<http://hospital.iuhw.ac.jp/clinic/tonyobyonaibunpitsu/index.html>



国際医療福祉大学病院
～連携通信～
第9号

那須塩原市 君島寛市長へインタビュー

～子どもから高齢者まで健康で元気に暮らせるまちをめざして～

わが国では、急速な「少子高齢化」や「2025年問題」、さらには2038年に向けて急増する「多死の時代」など、われわれの将来を左右する大きな社会問題が進行しています。厚生労働省は、高齢者が自立した尊厳ある人生をおくることができるようにと地域の特性に合わせた地域包括ケアシステムの確立を目指していますが、その取り組みはまだ始まったばかりです。今回は那須塩原市の医療福祉行政の特徴や将来構想の取り組みなどについて、那須塩原市 市長 君島寛様にお話を伺いました。



那須塩原市
きみしま ひろし
市長 君島 寛 様

那須塩原市医療福祉行政の特徴・将来構想について、また、地域包括ケアシステム実現に向けての市の取り組みについてお聞かせください。

「安心して暮らせる那須塩原市をつくる」が私の公約の1つです。これは「子ども、若者、大人、そしてお年寄り、障害のある方もない方も健康で一緒に生活ができるまちが住みよさ一番のまちである」との考えから掲げました。

まず、高齢福祉施策の視点から申し上げますと、わが国は、世界で類を見ない超高齢社会に突入し、団塊の世代が75歳以上となる2025年が、9年後に迫っています。重い要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを、人生の最後まで続けることができるような、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が一体的に提供される「地域包括システムの構築」が現在の喫緊の課題だと捉えております。本市においては、このシステム構築のため、市民・医療介護の専門職・関係機関団体等の方々と連携し、各種施策を進めているところです。中でも特徴的なのは、①「地域住民助け合い事業」の推進、②「地域ケア推進会議」の開催、③地域づくり型介護予防事業等です。

具体的な取り組みについて申し上げます。

①1点目は、「地域住民助け合い事業」です。これは、一人暮らしの高齢者等、地域の中の心配な人を自治会等が見守る活動を推進するため、平成27年度から5か年をかけまして、市内15か所の公立公民館へ「地域支え合い推進員」を配置して、活動を支援するものです。

活動を進める中で、地域の課題がある程度明確になり、なかなか地域で解決できないものもあると思います。市レベルで取り組むべき内容か等を話し合う場が持たれ、課題解決に導く活動となることを期待しております。



地域医療連携室 月曜日～土曜日 9:00～17:30

医療相談室 月曜日～土曜日 9:00～17:30

休診日・夜間等の救急紹介の場合は、0287-37-2221（代表）から担当医師に取り次ぎます。

地域医療連携室ホームページ URL: <http://hospital.iuhw.ac.jp/cooperation/index.html>



(C) みるひい
那須塩原市

②2点目は、「地域ケア推進会議」の開催です。旧3市町地区ごとに、地域包括支援センターが主体となり、医療介護の専門職の方々を中心に、個別ケースの課題分析から、地域課題を明確化し、地域で解決できないか、市レベルで解決すべきか等を話し合う場となっています。開催方法は地域特性に合わせた手法で実施しているのが特徴で、黒磯地区で草の根ケアネット、塩原地区でしおばらケアネット等が動いておりまして、西那須野地区では開催に向けて準備中です。

③3点目は、地域づくり型介護予防事業等への、「いきいき百歳体操」の導入です。これは、高齢者が容易に通える場で、住民が主体となって介護予防に取り組んでいただく活動に、介護予防の効果を実証されている「いきいき百歳体操」を取り入れていただくものです。現在、リハビリテーション専門職の協力を得ながら、西三島自治会で始めたところです。平均寿命と健康寿命は10歳程度の差があるようで、なんとか健康寿命を伸ばす一助になればと考えております。

なお、医療と介護を一体的に提供するためには、連携が欠かすことができませんので、7月から毎月1回多職種連携会議を開催しているところです。

次に、保健施策の視点から申し上げますと、生活習慣病の予防については、各種がん検診及び特定健診の受診率はわずかずつではありますが向上しているものの国の目標を下回っていることから、今後も受診率向上をめざしていきたいと思っています。また、市民の食習慣をみますと、冬場が寒い地域でもありますので、塩分を多く摂取する食生活をしている傾向が、アンケート調査の結果からわかります。また、若い世代においては朝食の欠食率が高く、運動習慣のない人が多い状況であります。生活習慣の改善について、今後も働きかけていくとともに、食生活改善推進員と連携をしてバランスの良い食事や減塩の普及啓発に取り組んでまいります。

母子保健事業については、妊娠から子育て期までの切れ目のない支援の更なる充実のため、今年度から保健センターを子育て世代包括支援センターとして位置づけました。また、関係機関との連携を強化し、密な情報交換を目的として、国際医療福祉大学病院を含む各産科医療機関と関係機関連携会議を開催したところです。

かかりつけ医の普及啓発については、日頃からさまざま事を相談できる「かかりつけ医」を持つように周知し、まずは日常的な診察や健康管理等を行ってくださる身近なお医者さんへの受診を勧めていきたいと考えております。



(C) みるひい 那須塩原市

国際医療福祉大学病院では2018年に55床増床、また、2017年4月に成田キャンパス医学部が開校し2021年度より医学生の実習受入が予定しています。那須塩原市様が当病院に期待していることはどのような事でしょうか。

国際医療福祉大学病院は市にとって中核的病院であり、市民の健康等を守っていくためには、なくてはならない病院だと捉えております。また、医学部を設置するという事で、若い医学生の方々が那須塩原市で生活されるということはまちづくりにとって、様々な面でレベルアップが図られると思っておりますし、地元の方々との交流もあると考えますので、本市の発展に寄与していただけるものと大いに期待しています。

地域住民の方々へ那須塩原市長よりメッセージをお願いいたします。

昨年12月に市民の多くの方々から付託をいただいて那須塩原市の市長として就任させていただきました。早7ヶ月となりましたが、いまでも大変重い責任を背負いながら仕事に当たらせていただいておりますが、小さいお子さんから高齢者まで健康で元気に暮らせるまちを目指したいとも思っております。1つの大きな目標が、市民目線、市民優先をという基本的な考えを持って仕事にあたるということでありまして、まずは市に住んでいる方が中心であるという考え方に立ち、色々な施策を展開していきたいと思っています。



それから平均寿命、健康寿命の差をいくらかでも縮めていきたいと考えております。さらには、今大きくクローズアップされている子育て環境の問題であります。お子様を預かる施設を整備しておりますが、まだまだ



塩水課長・小池部長(病院) 柴副院長(病院)・君島市長・菊地部長

十分とは言える状況ではなく、待機児童解消のために色々な形で事業を展開していきたいと考えております。人は最後の最後まで地元でそして家庭で生活ができて人生が終われることが一番の理想なのではないかとの思いもありますので、そういったことが実現できるように、まちづくりを頑張って参りたいと思っております。なお、施策実現のためには、市民の皆様にご理解とご支援をいただかないと何もできないと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



(C) みるひい 那須塩原市

健康フェア2016 健康長寿の秘訣!

健康フェア2016
シンポジウム：かかりつけ医の役割
～かかりつけ医は健康長寿の決め手～

2016年6月12日に当院で開催された「健康フェア2016 体験しながら楽しく学びましょう」において下記のシンポジウムを開催しました。

司会 地域連携室部長 柴 信行医師
シンポジスト

- | | |
|----------------|--------|
| 那須郡市医師会会長 | 深町 彰先生 |
| 西那須野・塩原地区医師会会長 | 鈴木明裕先生 |
| 黒磯・那須地区医師会会長 | 三森 薫先生 |
| 西那須野商工会会長 | 佐藤 幹夫様 |



司会 柴信行医師

会場にお集まり頂いた住民の方々への質問もまじえて、「かかりつけ医」とは何か、「病院」との違い、夜間や緊急時の対応などについて4人のシンポジストからお話がありました。地域医療の現況、地域包括ケアシステムを実現していく上での医療機関の機能分化や多職種連携の重要性、さらには在宅における看取りについても議論がありました。患者さんからみた医療に対する評価や希望についても厳しいご意見がありました。最後に、今年度から那須郡市医師会会長に就任なさった深町先生から、那須郡市医師会の取り組みについてお話がありました。現在と将来の地域医療のリアリティに迫る大変良い議論の場になったと思います。



深町 彰先生



鈴木 明裕先生



三森 薫先生



佐藤 幹夫様

国際医療福祉大学に医学部を設置することを文部科学大臣が認可

国際医療福祉大学が成田キャンパスに医学部を新設することについて、8月31日に、文部科学大臣より設置が認可されました。これにより、2017年4月に入学定員140人の医学部を開校いたします。このうち20人はアジアなどからの留学生を受け入れ、将来母国で医療のリーダーになる人材を育成いたします。医学部では、多くの科目の授業を英語で行うなど徹底した英語教育を展開するとともに、留学生の日本語教育にも力を入れ、高い総合診療能力を身につけた医療人材を育成いたします。2020年には、新たに附属病院が開院する予定です。



2017年4月 成田キャンパスに医学部を新設

国際医療福祉大学病院をはじめとする大学附属病院等では、医師や医療スタッフをさらに充実させて、医学部の臨床機能を担ってまいります。

※ 国際医療福祉大学医学部や受験案内の詳細については、下記ホームページをご覧ください。
<http://narita.uhw.ac.jp/igakubu/>